飛騨市 長崎青少年ピースフォーラム派遣

派遣報告書（令和6年度）

私は青少年ピースフォーラムに参加して、戦争や原子爆弾、被爆のことなどを知りました。松尾幸子さんの話を聞いて心にのこったことはみんながやけどしていたり、切りきずをつくっていたこと、約七万三千人の命がうばわれたことです。そして、運良く生きのこった方でも食料がなかったり、放射線の後遺症、飛行機におびえながらの生活をおくっていたことをあらためて知って、再度戦争の怖さを感じました。長崎に原子爆弾が落とされてから七十八年をおかえたいまでも、家族を無残にもうばわれた多くの人々が深い悲しみを受け、それは今でもつづいています。爆心地公園、平和公園には、ひがいを受けた方やこれからの平和を願う像、原爆のひどさをものがるものなどがありました。その中で、原爆落下中心地碑には、なくなった方の名前がかかれた紙が入っています。浦上天主堂の遺壁は原爆による爆風によってずれがおきていました。いちばんおどろいたのは、地層の変化です。被爆当時の地層はいまの地層よりひくかったそうです。

幸子さんは、世界ですすんでいるかくへいきの開発に反対という話をしてくれました。そこで私にできることは、少しずつでもみじかな人に戦争のこわさ、かくへいきのこわさをつたえていくことだと思います。

最終日の意見交流ではいろいろな人の考えを知れました。けんかや戦争がおこる原因について考えるときには、自分にはなかった意見があっっておどろいたし、あらためて考えるとほんのちょっとの理由で争いがおこって、少し落ち着いて考えればいいところで感じよう的にこうどうしてしまい大きな争いになってしまうことを学びました。

（中村 朱李）

僕が長崎青少年ピースフォーラムを通して「自分も相手も大切にすること」が平和への考え方だと思います。

僕はこの三日間で戦争・核兵器のおそろしさ、平和・幸せの尊さを知りました。まず被爆体験講話を聞いて原爆の見方が変わりました。以前まで原爆は強い兵器と軽く思っていたけど話を聞くと原爆は太陽の温度に近い熱風や現在でも被爆者を苦しめている放射能など原爆はとてもおそろしい物だと分かりました。特に自分が一番心に残っている平和祈念式典では長崎市長や総理大臣の話もありましたが被爆者の話を聞いてぞっとしました。話の一部では男女の区別がつかないほどのやけどをした人た

ちがろくな手当もされず人がどんどん亡くなっていき自分の学校がしたい処理場になっていたという話を聞き想像をただけでも原爆のおそろしさが伝わってきました。

僕はこの三日間で特に残っている言葉が二つあります。それは、「長崎を最後の被爆地に」と「核兵器廃絶」です。僕もそう思います。核戦争が始まったら長崎のような光景が世界各地に見られるとおそろしいです。そのため長崎を最後の被爆地にし、核兵器を一日でも早く廃絶してほしいとおもいます。このようなことが二度と来ないように僕は「自分も相手も大切にすること」が大切だと思います。なぜなら戦争やけんかは相手を悪者だと思ひ争いになります。その前に相手も大切にしながら自分も大切にすれば平和になると考えます。これを目指せば世界平和を実現することもできると思います。これを全世界ができるのは難しいですが一人でも多くの方がこの思いを感じてくれば平和になると思います。自分はこれから「相手も自分も大切にすること」を目指していきたいです。

(渡邊 瑛仁)

私はこの夏休み長崎青少年ピースフォーラムの活動で、平和について学ぶために長崎へ行ってきました。私は今まで何度か、過去の戦争について学んできました。けれどどこかで他人事のように考えていました。だけど最近各国での争いのニュースを目にして、少しながら自分にも起こり得る事なんだなと感じました。そんなニュースや話を聞く中で「平和とは何か、自分にできることはなにか」という疑問を持ち活動を行いました。一番心に残ったのは、被爆者の方の体験講話です。松尾幸子さんからお話を聞かせていただいて、実際に被爆された方のお話を聞いたのは初めてで、画像とか動画を見るより生の声でお話を聞かせてもらった時の方が戦争の悲惨さを感じました。またフィールドワークに参加させていただいて幾つかの被爆建造物等を見学させてもらい改めて原爆の威力の凄まじさを目の当たりにしました。またフィールドワークの中で、「中国人原爆犠牲者追悼碑」というものを知って、今まで原爆の犠牲者は日本人だけだと思っていたけど、外国の方も被害に遭っていたことを初めて知りました。私はこれらの長崎での体験を通して争いのみにくさと平和の尊さを学ぶことができました。そして普段なんとなく聞いている「語り継いでいく」という事の大切さ、「二度とくり返してはいかない」という言葉の重みを実感しました。

(中村 紅葉)

僕がこの平和学習に参加しようと思ったきっかけは、小学校の授業で戦争のことを知りもっと深く知りたいと思ったからです。去年の夏に広島に行き、原爆ドームや資料館を見て回って戦争の恐ろしさ、原爆の威力を目の当たりにしました。今回長崎では、全国から同世代の人が集まるということで、みなさんと平和について考えたり、交流

できるということで参加しました。長崎は広島と同じで被爆者の人たちがたくさんいました。原爆でたくさんの人、物が一瞬で消えました。原爆で焼かれて灰になりかけになった人、爆風で押し出された浦上天主堂、たった一発の原爆でおおぜいの人々が死にました。今でも苦しんでいる人がたくさんいます。でも当時の日本は、軍にさからえず、仕方なく戦争に参加しなくてはいけなかったのだと思います。交流を通して、皆が口をそろえて言っていたのは、人の意見を尊重すれば、戦いが起こらないということ。目、肌の色、文化、生活もさまざまな人類だけれども、人を思いやる心は誰にでもそなわっていると思います。思いやる心があれば、戦争はなくなると信じています。もう二度と、戦争を起こさないために、僕たちに出来ることは、口から口へと、戦争の悲惨さを伝えていくこと、相手の立場に立って物事を考え、行動することだと思います。

戦争で亡くなった人は、きっと、平和な未来を願っていると思います。今ある平和が当たり前のことではないということを忘れずにいたいです。

(澤芳 湊)

僕は、長崎青少年ピースフォーラムに参加して、戦争はとても恐ろしいもの、特に原爆は絶対にあってはならないことだと思いました。そして、被爆者の話では原爆が落ちた後、学校のことが気になり友人と様子を見に行ったら、そこには男女の区別もつかないほど血まみれで傷を負った人たちが弱り切った声で「水を下さい、水を飲ませて下さい」と懇願していました。体育館に運び込まれた人たちは、誰かが手当てをしたり水を飲ませたりすることもなく、ただ寝かされているだけで、体育館の中は夏の暑さと漂う異臭で地獄のような状態だったそうです。そして中には家族をなくしたり友人をなくしたりした人も多くいます。そしてこれからは、核廃絶という被爆者の思いを胸に、僕が思い願っていることは、多くの人に自分が被爆者だと思って戦争の恐ろしさや原爆の恐ろしさを聞いて感じてほしいし、その話を聞いた人がまた周りの人、そして後世に伝えるといった風にならずと未来の世代にもこのことが伝わってほしいということです。そして、核兵器が一日でも早くなくなることを願います。

今回は、長崎に行かせてもらい原爆の話の聞いたり原爆で溶けた物、そして壊された建物を見させてもらったりと、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

(都竹 奏翔)

僕は長崎青少年ピースフォーラムに参加して、被爆体験講話を聞きました。被爆者の方は爆心地から約1.3kmで被爆し、0.7km地点にあった自宅は跡形もなく焼けてしまい、たくさんの家族を失ってしまい、外出も危険な状態になり、食べるものがぜんぜんなく、そこらへんにしたいが転がっているという状態がもはや当たり前のよう

あったそうです。そんな状況は、想像するだけで苦しいです。ですが、これは皆が自分ごととしてとらえることが大事です。また、平和公園コースもまわりました。そこでは、爆風のすさまじい威力や被爆により高くなった地層などさまざまなものを見ました。どれも信じられないようなものばかりでした。また、放射線を浴び生き延びても時が経つにつれ亡くなられた方たちもたくさんいます。なので僕はもうこのような悲劇を繰り返さないためにも、昔長崎に落とされた一つの原爆によりどれだけの命が失われたのか。そういったことを周りの人たちに伝えていきたいと思います。実際に長崎へ行き、目で見て、話を聞かせてもらえるという貴重な機会を設けていただいて本当にありがとうございました。

(都竹 遥翔)

私は、長崎ピースフォーラムに参加したことで、実際の原爆遺構を歩いたり、原爆資料館を見学することができました。

原爆が落とされた長崎は、今のきれいな長崎市とはあまりにも違う風景でした。ほんとうに一瞬で家族・友達・大切な人・尊い命を落とし、悲しい思い、つらい思いをしたということがよくわかりました。

平和の泉には原爆のため水がなく、水に油が浮いていたけれど、とうとうその水を飲んでしまった。という文がありました。そのことからとても水を求めていたという事がわかりました。平和の泉にも意味があり、被爆した人たちが水を求め、亡くなっていった悲しい場所である事を知りました。

式典では、長崎の人たちの悲しみや努力を知ることができました。

式典のあとには、全国から参加した中学生たちで、グループワークが行われました。テーマは、「ケンカ・戦争をなくすためにはどうしたらいいだろう？」でした。

はじめて会うメンバーが沢山いたけど、いろんな意見を出すことができました。ケンカの原因は、いじめ、差別、平等じゃないから、という意見がでました。私達のグループでは、ケンカをなくすには、一人一人を尊重する事が大切だという意見が出ました。

戦争は、国同士のケンカですが、人が沢山亡くなります。どうしたら戦争が起きなくなるのか、今の私には難しかったです。ずっと考えていきたいと思います。

今回、長崎ピースフォーラムに参加し、戦争は絶対にしてはならない、原爆を使ってはならないという事を、自分からまず身近にいる人に伝えていき、それからもどんどん伝えられる人になりたいと思います。

(田中 美羽)

今回ピースフォーラム派遣を経て自分は核兵器や戦争で悲しむ人がいない平和な世界にするために少しでも貢献したいと思いました。

被爆体験講話を聞いて核兵器の脅威と平和の尊さを学びました。講話をしてくれた松尾幸子さんは十一歳の時に被爆し、弟たちは火傷を負ったと聞いて子どもにも被害を与えた原爆の脅威が分かりました。幸子さんの家族や多くの尊い命を奪った核兵器を二度と使われないようにしていこうと思いました。

次に、フィールドワークで学んだことは、原爆の恐怖と命の尊さです。始めに、原爆落下中心地です。この公園内の地下に当時生活していた人々の痕跡が埋まっていると聞いて、ここに十一時二分まで人がいたのかと少し驚きました。また、爆風により木々が倒れ焼き尽くされて七十年は草木も生えないと言われていたのが1ヶ月で芽吹き始めて、今では緑に囲まれていて少し感動しました。次に平和公園です。この公園に刑務支所があって原爆で等かいたと聞いた時耳を疑いました。公園内にある平和の泉は亡くなった人々に捧げるものと聞きどれぐらいの熱線だったかが分かりました。

最後に他校の方々と戦争の原因を話し合っそれぞれ平和宣言を作りました。自分の平和宣言は「相手を知り、尊重する」です。この平和宣言を忘れないように一日一日を大切に生きています。

(森下 拓利)